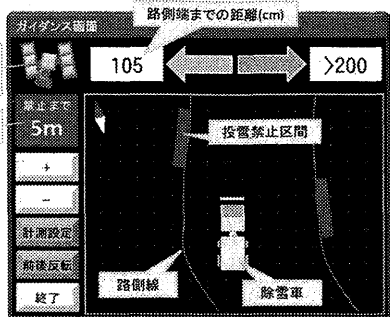


ロータリー除雪車作業支援装置開発へ

北陸整備局

除雪機械の熟練オペレーターが高齢化して人手不足が深刻化する中、北陸地方整備局は、情報化施工技術を活用したロータリー除雪車の作業支援装置（ガイダンスシステム）の現場適用性実験を行っている。これまでの研究と実験成果が7月末の事業研究発表会で報告された。

試作装置は、衛星利用測位システム（GPS）で計測の位置情報、位置情報を映し出す画像モニターを受け取るGPSアンテナ、除、画像モニターの位置情報を音



ガイダンス画面



運転席に取り付けた試作装置

画像と音声でオペレーターに位置伝達

声でより具体的に伝えるスピーカーで構成。モニターは降雪時には見えなくなる車両から道路端の路側線までの距離と、雪を飛ばしてはいけない投雪禁止区間を示すことができる。さらに路側線に近づきすぎると危険を知らせる音が点滅して、音声で警告する機能も備えている。

試作装置は、北陸技術事務所構内の試験コースでの動作検証後、今年1月下旬から3月上旬にかけて、高田河川国道事務所の除雪基地配備のロータリー除雪車に設置。国道18号の実際の除雪作業に投入して有効性を確認した。

実験は国道18号の道の駅あらい付近の延長2.5区間で合計4回実施。動作検証試験と同様に、ガイダンス装置の表示誤差は目標値にしていた10%以下に約90%が納まり、速度の上昇による精度の低下も見られず除雪作業に十分活用できることが確認できたという。

事業研究
発表会で報告
実用化目指し実験続く

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |